

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：特別支援教育費 目：特別支援教育振興費

事業名 発達障がい支援担当教員養成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 特別支援教育課 発達障がい教育係 電話番号：058-272-1111(内8686)

E-mail：c17783@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,400 千円 (前年度予算額： 1,964 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,964	0	0	0	0	0	0	0	1,964
要求額	1,400	0	0	0	0	0	0	0	1,400
決定額	1,400	0	0	0	0	0	0	0	1,400

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・LD、ADHD等の発達障がいを対象とした通級指導教室に通う児童生徒数は、平成20年度から令和5年度にかけて約5,600人増え約20倍となり、今後も増加が見込まれる。
- ・平成29年度から通級指導教室担当教員の定数化（児童生徒13人につき教師1名の配置）が段階的に進められて、LD・ADHD等通級指導教室を担当する教員の育成が急務となっている。通級指導教室の多くが1校に1教室の設置であり、日常的な校内研修が難しく、新任の通級担当者が具体的な指導イメージをもてる研修が必要である。
- ・LD、ADHD等の発達障がいに関する知識や支援のあり方などについては、特別支援教育の担当者のみならず、全ての教員が学ぶ必要があり、多くの教員が負担なく学べる研修の場が必要である。
- ・特別支援学級や言語障がい通級指導教室を担当する教員の研修の場が担当1年目に限られており、より実践的な指導力を身に付けていく必要がある。

(2) 事業内容

- 発達障がいのある児童生徒の支援にあたる教員養成のための研修を行う。
- ・ベーシック研修（通級指導未経験者、発達障がいについて学びたい者）
コア・ティチャーによる実際の指導場面の参観や動画コンテンツの視聴、発達障がい支援に関する講義
 - ・スタート研修（発達障がいを対象とした通級指導教室担当1年目の者）
受講者の指導についてコアティチャーから助言・指導
 - ・ステップアップ研修（発達障がいを対象とした通級指導教室担当2年目以降の者）
専門家による講義や自身の課題追求を中心とした内容
- ※各教育事務所管内において、発達障がいのある児童生徒を対象とした通級指導教室を担当している実践力豊かな教員を、コア・ティチャー（CT）に指名し、上記3つの研修の中心を担う。
- ・スタンダード研修（発達障がいについて学びたい者）
動画コンテンツの視聴を行い、発達障がい支援について基本的な対応について学ぶ。
 - ・レベルアップ研修（特別支援学級担任・言語障がい通級指導教室2～5年目の者）

課題追求式の研修を行い、より実践的な指導力を身に付ける。

(3) 県負担・補助率の考え方
県 10/10

(4) 類似事業の有無
・無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	436	研修講師謝金
旅費	552	研修講師、自主研修旅費、教育事務所担当者打合せ旅費
負担金	164	コア・ティーチャー研修会・学会参加費
消耗品費	70	授業参観用機器、教具材料、研究用書籍費等
役員費	178	電話代、郵送料
合計	1,400	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ
・第4次岐阜県教育ビジョン（令和6年3月策定）

(2) 国・他県の状況

(3) 後年度の財政負担

(4) 事業主体及びその妥当性

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

各地域において、コア・ティーチャーを活用した研修システムを確立し、小・中学校、義務教育学校のベーシック研修の受講者を令和6年度から5年間で計300人を増やす。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①ベーシック研修受講者数（累計）		累計133人	累計175人	50人	累計300人	
②						

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック研修を受講し、通級による指導の実際を学んでから通級指導教室を担当することができる。 ・研修受講者を中心に、コア・ティーチャーに指導について相談をしたり、受講者間で教材教具を共有したりするなど、地区ごとに通級担当者のネットワークができつつある。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間のベーシック研修受講者から13名が通級指導教室担当になり、スムーズに指導スタートができている。 ・スタート研修受講経験者がアドバンス研修受講者に、アドバンス研修受講経験者がコア・ティーチャーになるなど、研修で着実に力を付け次のステップに進み活躍している。
	指標① 目標：87人 実績：87人 達成率：100 %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校、義務教育学校におけるベーシック研修の受講者が40人となり、また幼稚園や高等学校等の教員も受講対象者とすることで、発達障がい支援におけるニーズに広く応えることができた。 ・実際の授業における指導場面に基づいて、コアティーチャーから指導を受けることで、指導の意図や方法など具体的に学ぶことができた。
	指標① 目標：137人 実績：135人 達成率：98.5 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>発達障がいのある児童生徒を対象とした通級指導教室は今後も増加が見込まれるため、各地域で担当教員を実践的な研修を通して養成するとともに、より多くの教員が発達障がい支援について学ぶ場が必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>受講した者は、学んだことを発達障がいのある児童生徒の理解や支援に生かし、通級担当者としての指導力を身に付けている。動画コンテンツの有効活用を図り、多くの教職員が受講しやすい研修を行う必要がある。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>各地域ごとに少人数での研修を実施するため、受講者は受講者同士のネットワーク構築ができたり、実際の指導をもとに具体的な指導を受けることができる。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 受講しやすい研修形態とし、通級指導教室に携わる教員以外の教員も発達障がい支援について学べるようにすること。特別支援学級の教員の指導力向上を図ること。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 受講者のニーズを明らかにし、研修の内容や方法についての課題を明らかにし、充実を図る。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	